

学生とシニアの対話イン宮城教育大学 2022

アンケート結果

2022年7月31日

報告者 SNW 後藤 廣

1. 学生アンケートの集計結果

(1) 回答者

学生 18名

内訳：全員2年生、理系 12名、文系 6名

進路：就職 14名、進学 4名

(2) 今回の講演や対話について伺います。該当するものをチェックして下さい。

① 講演の内容は満足 of いくものでしたか？ その理由は？

(1 1) とても満足 (6) ある程度満足 (0) やや不満 (0) 大いに不満 (1名講義欠席)

理由：

- ・自分の興味のある分野の専門的な内容だった。
- ・資料の情報量が多いうえ、専門性の高いものであった。
- ・基本的なことから、専門的なことまで幅広く学ぶことができた。
- ・全く知らないことは、どこから調べていくのか分からなかったなので、まとめて教えて頂いて調べるきっかけになった。
- ・基礎知識が足りない部分があったが、全体として理解はできた。
- ・気になっていることが分かった。
- ・より専門的な話を聞き知見を深められた。
- ・知りたい知識を得られた。
- ・専門の人から直接話を聞くことができた。
- ・今まで形式的な事しか知らなかったが、詳細まで理解することができた。
- ・グラフや表などが分かりやすかった。
- ・自分の興味のあることや、それに付随した話を聞くことができた。
- ・自分の疑問を解決することができ、次につなげることができる。
- ・疑問に思ったことを、その場で質問できた。
- ・技術的なものから制度の背景まで知ることができた。

② 対話の内容は満足 of いくものでしたか？ その理由は？

(1 1) とても満足 (7) ある程度満足 (0) やや不満 (0) 大いに不満

理由：

- ・ネットで調べるだけでは分からないようなことを聞くことができた。
- ・テーマの抽象性が高い他、対話の結論のもととなる問いが曖昧であった。
- ・知らないことを聞いた。疑問を解決できた。
- ・前回の講義の質問対応から発展して、新たな知識を得ることができた。

- ・疑問の解消。知識を得た。世論への伝播の仕方を学べた。
 - ・自分の話し合いたかった議題について話せた。
 - ・新しい観点を身に付けられた。（“安全”に関する話）
 - ・内容は良いが、時間がやや足りない。
 - ・気になっていたことを、ある程度聞くことができた。
 - ・自分が疑問に思っていたことを消化できた。
 - ・色々な考えを聞くことができた。
 - ・それぞれの発電方法に対するメリット、デメリットを詳しく知ることができた。1時間半という時間で話し合うには「カーボンニュートラル」という題は幅広過ぎると感じた。
 - ・皆、積極的に意見を交わしていた。
 - ・シニアの細かい意見も参考になった。
 - ・技術や制度の背景をシニアの印象と共に聞くことができた。
- ③ 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？
- (1 0) 十分聞くことができた (8) ある程度聞くことが出来た
 (0) あまり聞けなかった (0) 全く聞けなかった。

理由：

- ・自身の知識が足りない事で、理解できない内容があった。
 - ・PDFによって丁寧な解説を受けることができた。
 - ・質問への回答が非常に丁寧であった。
 - ・時間がやや足りなかった。
 - ・事前に資料配布、質問回答して頂いたのが良かった。
 - ・カーボンニュートラルは実現できるのかという点が疑問だったが、取りかかることの重要性を改めて感じた。
 - ・具体例と根拠を用いた説明であった。
 - ・いくつか考えていたことはあるが、対話中の方が興味深かった。
- ④ 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）
- (1 4) 新しい知見が得られた。
 (3) マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった。
 (0) 自分の将来の進路の参考になった。 (1 0) 教育指導の参考になった。
 (0) 特に新しい知見は得られなかった。 (0) その他
- ⑤ 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？
- (1 3) 非常にある (5) ややある (0) あまりない (0) 全くない

理由：

- ・新しい考え方を得られる。
- ・廃棄物処理問題は長い時間を必要とするため、若い世代への知識の伝達が必要。
- ・知識・経験のある方と話すのは、多くの学びがある。知識が深まる。

⑥ 今後、機会があれば友達や後輩に対話会への参加を勧めたいと思いますか？

- (1 6) 勧めたいと思う (0) 勧めたいとは思わない
(2) どちらとも言えない (0) その他

意見：

- ・ 専門家との対話は貴重な機会だった。
- ・ 対話会の時間が短い。(どちらとも言えない。)
- ・ 実際にたずさわっている方の意見を聞けるのはとても良い機会になる。
- ・ もう少し話し合い形式にした方が意見交換し安い、P4C (philosophy for children) 等。
- ・ 幅広い観点から話すことができる。

(3) 放射線、放射能に対して伺います。(複数回答も可)

- (2) 放射線、放射能はやはり怖い。
(1 1) 一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた。
(1 0) 一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解できた。
(4) 放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた。

(4) 原子力発電に対して伺います。

第6次エネルギー基本計画では、原子力については、安全性の確保を大前提に必要な規模を持続的に活用していくとしつつ、可能な限り原発依存度を低減するとしています。本日の対話も踏まえあなたの認識は次のどれですか？

その理由は？(該当するものをチェック) (この項目以降1名無回答)

- (7) 原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。
(7) 原子力発電の必要性は分かっていたので、認識は変わらなかった。
(2) 原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。
(0) 原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。
(1) どうすればいいかよく分からない。

理由：

- ・ カーボンニュートラルの観点から使える手段は使った方がよい。
- ・ 原子力は他の再生可能エネルギーを補うためにも必要。
- ・ 安全性も重要だが、目先の問題にとらわれるより、遠い未来を見ていかなければならない。
- ・ 再生可能エネルギーが大きく注目を受けているが、エネルギーの供給量は変動的なので、補助するために、安定した電力を供給できる原子力発電は必要である。
- ・ 安全性を確認しつつする分には問題ない。
- ・ 安全に取り扱い、廃棄物処理の費用などが考えられているのであれば良い。
- ・ テーマが放射性廃棄物処理についてだったため。(認識は変わらなかった。)
- ・ 両極端は良くないと思うので、完全になくす必要はないと思う。
- ・ 予想しない事態が起こってしまう可能性がある。(早期に削減又は撤退すべきだ。)
- ・ 実際に起こってしまった東日本大震災が背景にある。(早期に削減又は撤退すべきだ。)

- ・クリーンエネルギーである点と、安全性との間で、自分の中でせめぎあいがある。
(どうすればいいかよく分からない。)

(5) エネルギーについて伺います。

我が国は世界と歩調を合わせ 2050 年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルをエネルギー政策の柱としています。一方、最近のウクライナ侵攻に対するロシアからの石炭、石油、天然ガス輸入停止制裁により価格が高騰し、エネルギー供給も懸念されています。とりわけ国土狭隘、資源小国の我が国においては再エネも限界があり電力の安定供給が懸念され、現在でも停電の機器が報じられています。このような状況を踏まえ、2050 年カーボンニュートラル政策（脱炭素政策）と世界的エネルギー危機についてのお考えをお聞きます。

① 2050 年カーボンニュートラル政策は必要と思いますか？

- (5) 必要であり、実現可能である。
- (1 1) 必要であるが、実現するとは思えない。
- (0) 必要ない。 (1) わからない。

理由：

- ・出来る技術を駆使していく必要がある。
- ・石油などの高騰などに対し、インフレなどが連鎖して財政に影響がある。
- ・期限が示されることは大切だと思う。
- ・世界情勢もあり、具体的にどうするか市民があまりわかっていないと思う。
- ・前例がないので、成功するとは思えない。
- ・あと 30 年ほどで国という大きい単位で動けるとは思えない。
- ・温暖化対策のため必要であるが、今の日本には決断力がないので実現は難しい。
- ・目標を完全達成するのは、これから、また新たな問題等がでてきて難しいと思う。
- ・実現にはコストがかかりすぎる。
- ・現在どのような計画が立てられ、実際にどれくらいの成果が得られているか知らない。
- ・対話からも必要であると考えたが、再生可能エネルギーによる発電も万能ではなく、これからは火力発電等に頼らないといけないと思う。

② 世界的なエネルギー危機についてどのように認識していますか？

- (7) 大変厳しい状況である。 (9) 厳しい状況である。
- (0) それほど厳しいとは思わない。 (1) わからない。

理由：

- ・日本人一人が使っているエネルギー量を、全世界の人全員が使ったら、世界の使用エネルギー量は 2 倍になる。それが今世紀中に来る。怖いことだと感じた。
- ・人口が増えていく中で、必要なエネルギーは増加し、特に、80 億人全員が日本と同じ水準のエネルギーを使うと、世界で 2 倍のエネルギーが必要で、発展途上国がどんどん発展していくと、このエネルギー問題はより焦眉の課題になるのではないかと思う。
- ・膨大なエネルギーを使い過ぎているという事実がある。
- ・実際に節電の要請などが出ており、身をもって電力不足を感じている。

- ・戦争も起こっている。ロシアのウクライナ侵攻や人口増加が起きている。
 - ・厳しくはあるが、それ以上に平和であることが必要である。
 - ・あと50年位しか石油が使えなくなり、その間に新しいエネルギーを生み出していく必要がある。
 - ・ニュース等で声高に叫ばれている。
 - ・今使っているエネルギー源のほとんどが有限なものだとよく聞くようになった。
 - ・原子力の廃棄物問題に加え、化石燃料の埋蔵量に限りがある。
- ③ わが国として 2050 年カーボンニュートラルの実現とエネルギー危機への対応はどうしたらよいとお考えですか？（複数回答可）

- (1)再生可能エネルギーだけで可能と思う。
- (1 4)不安定な太陽光や風力には限界がある。
- (3)原子力を最大限活用すれば可能と思う。
- (6)排出される二酸化炭素の分離、活用、隔離をすれば可能と思う。
- (5)水素燃料などへの燃料転換により可能と思う。
- (2)ロシアからの燃料の代替供給元を探す必要がある。
- (0)ロシアからの燃料は再エネと原子力で代替できる。
- (1)その他
- (0)わからない。

理由：

- ・複数の組み合わせがいると思う。
 - ・徐々に再生可能エネルギーを 100%にしていくことができるようにしてほしい。
 - ・手段は多い方がよいと考える。
 - ・再生可能エネルギー、原子力、火力をバランス良く活用するのが良い。
 - ・もっと踏み込んだ政策をしなければならない。
 - ・多くの発電手段をもつことが大切である。
 - ・変動性のある発電に頼るのは得策でなく、そえを補助するためにも原子力発電や CO2 を排出しない火力発電の開発が必要。
- (6) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。
- ・どれだけ安全だと説明され、それを頭では理解していても完全に不安感は消えないと感じた。
 - ・理科をしっかり学んでこなかったため、少し難しい内容もあったけれど、たくさんの大切な事柄を知ることができた。
 - ・専門家の方の貴重な意見や見識を聞くことができ、とても良い機会でした。

2. まとめ

(1) 講演

- ・ 基本的なことから専門的なことまで幅広く詳細に学ぶことができた等、全員が満足とした。

(2) 今回の対話の内容

- ・ 知りたいこと、疑問に思っていたことを解決でき、技術や制度の背景についてシニアの考えを聞くことができた等、全員が満足とした
- ・ 全員が、事前に聞きたいことは聞けたとしたが、1時間半では時間が足りなかったとの意見もあった。
- ・ 「学生とシニアの対話」については、知識・経験のあるシニアと話すのは、多くの学びがあり、また、若い世代への知識の伝達が必要であると、ほぼ全員が、今後、機会があれば友達や後輩に対話会への参加を勧めたいと思うとした。
- ・ 「もう少し話し合い形式にした方が意見交換し安い、P4C (philosophy for children) 等。」との意見があった。シニアからの一方的な説明にならないようにするために、シニアは「問いかける」ことから始めるなど、学生からの発言を引き出す工夫・努力を継続する必要がある。

(3) 放射線、放射能

- ・ 「やはり怖い」 11%

(4) 原子力発電

- ・ 「削減または撤退すべき」、または、「どうすればいいのかわからない」 18%。

(5) エネルギー

- ・ 「カーボンニュートラルは必要」 94%、（「わからない」1名）
「実現可能である」 29%、「実現するとは思えない」 65%
- ・ 世界的なエネルギー危機についての認識
「厳しい状況である」 94%、（「わからない」1名）